平成26年 寄居町成人式

445人が新成人に!

桜沢地区

市街地・西部地区

用土地区

男衾B地区

男衾A地区

折原地区

鉢形地区

成人の誓い

内容は一部抜粋

村田　康太朗さん

新春を迎え、新たな決意を胸に誓うこの良き日に、私たち新成人のため、このような盛大な式典を開催してくださり、誠にありがとうございます。ご来賓の皆様から、お祝いや激励のお言葉をいただき、新成人を代表して心から感謝申し上げます。新成人としての責任の大きさを感じ、身の引き締まる思いです。

二十年という軌跡はこれからの私たちの人生を形成する土台となっています。今まで経験したすべては、自分の新しい一面を見つけ、さらに自分を見つめ直すきっかけとなりました。一つひとつの時間に無駄はなく、私を成長させたのだと思います。

しかし、成長していく過程の中で、後悔というものはたくさんありました。そのような経験から、挑戦することを避けるような自分が生まれ始めていることも確かです。けれど、後悔をしたからこそ見えてくることもありました。これから私たちは、成人として自分の行動に責任を持たなければなりません。失敗を恐れて自分の道を疑うのではなく、後悔してもいいから自分の道を進むことが大切だと考えています。

私たちは二十年生きてきました。しかし、まだ私たちは二十年しか生きていないのです。先輩方から見ればまだまだ未熟者です。未熟者だからこそ、精一杯悩んで、経験していくことが必要なのです。人生の分岐はたくさんあり、その分岐を自分の意思で選んできましたし、これからも選んでいかなければなりません。

ここまでの道は決して楽ではありませんでした。挫折があり、時には不安に押し潰されることが幾度となくありました。その度に周りの方々に助けられたことを私は忘れません。優しいながらも、厳しいご指導をしてくださった先生方やお互いに励まし合い助け合う仲間がいたからこそ、今ここに立つことができました。

そして、私を産んでくれた両親には何度も迷惑をかけました。悩んだとき、道に迷ったとき、私を導いてくれたのはいつも両親でした。いつでも私を守ってくれた両親がいたからこそ、自信を持って歩み出すことができます。多くの方に支えられ、感謝という言葉では足りないほどの気持ちをこの場を借りて伝えさせていただきます。

最後になりましたが、本日この式典において、皆さんの代表として成人の誓いをさせていただき大変嬉しく思います。成人という節目にこのような機会をいただき、社会の一員としての決意を固める良いきっかけとなりました。この気持ちを忘れず、自身の信じる道を歩んで行きたいと思います。

町では、1月12日に中央公民館で成人式を開催しました。当日は穏やかな天候のなか、同級生、恩師との久々の再会に喜ぶ新成人たちの笑顔があふれていました。

今年、成人を迎えたのは445人。式には352人が出席し、成人としての新たな一歩を踏み出しました。

青年主役の成人式

寄居町の成人式は、19歳から21歳の町内3中学校の卒業生と、7地域公民館長、中央公民館長で構成された「成人式運営委員会」により運営されています。運営委員会では「自分達が主役の成人式」を創り上げるため、青年委員が昨年7月より会議を重ね、積極的にアイディアを出し合い準備を進めてきました。当日の受付、アトラクションや式典の司会・進行等の運営にも当たっています。

エコキャップリサイクル活動

「地球に愛を!子どもに愛を!プロジェクト」

成人式で取り組む、エコキャップリサイクル活動「地球に愛を!子どもに愛を!プロジェクト」も今年で4回目となりました。エコキャップリサイクルとは、ペットボトルのキャップを集めると、発展途上国の子どもたちにワクチンが届けられるというものです。キャップ800個でポリオワクチン1人分になります。

8月から中央公民館ほか6箇所に設置した回収箱と、成人式当日に出席した新成人が持参したキャップを合わせると1444、910個181人分のキャップが集まりました。

記念撮影

晴れ着に身を包んだ新成人の皆さんは、地区ごとに記念撮影を行いました。写真は、文字入れされた後、町からの記念品として新成人に郵送されます。

アトラクション

記念撮影終了後は、瀧沢凌昌さん（右）と小林大輝さん（左）の進行によりアトラクションが行われました。卒業アルバムなどからピックアップした写真で作ったスライドショーがホールスクリーンに映し出されると、会場からは大きな歓声が上がりました。

懐かしい写真で中学時代を思い出した後は、新成人へのインタビュー。久々に再会した友人へのメッセージや近況報告を話してくれました。

式典

アトラクションに続いて式典が行われました。鈴木理沙さん（右）と飯島真穂さん（左）が、式典の司会を務め、厳かな雰囲気のなか、心に残る式典となりました。

今年の成人の誓いでは、村田康太朗さんと今井李香さんが、新成人としての決意や夢を発表してくれました。会場の新成人たちも緊張した面持ちで聞き入っていました。

今井　李香さん

年が明け、春が近付き、まだ寒いながらも、木々や花々は温かい日差しを夢見て、少しずつ成長を続けています。この春を待つ日に、私たちをお祝いしていただけることを嬉しく思います。

私たちは二十歳となり成人を迎え、言わば大人の仲間入りを果たしました。

突然ですが、皆さんは大人にどのようなイメージを持っていたでしょうか。私は小さいころから、あまり大人に良いイメージを持っていませんでした。もちろん、周りにいる親や先生といった良い印象の大人もいましたが、ここでは日本全体の大人を指しています。小さいころから、テレビで流れてくるニュースなどを見ては、大人はずるくて自分勝手というイメージがあり、今でもそう思っています。私はそんな大人にはなりたくありませんし、なるつもりもありません。できるなら、子どもからああいう大人になりたいと思われるような大人になりたいです。

そのために、特別なことをする必要はないと思います。ただ、正直に真っすぐ生きていくだけで良いと思います。私はそんな風にこれから生きていきたいです。

二十年という月日は長かったようにも思えますし、短かったようにも思えます。思い返してみれば、この月日の中で、さまざまなことがあり、時には困難を乗り越え、時には心から笑い、楽しみ、ここまで成長してきました。その思い出にはいつも友達がいました。今日、ここでまた会えたことを嬉しく思い、これからも笑い合っていきたいです。

また、この二十年間常に支えてきてくれたのが家族、両親です。「親自慢の娘・息子になれ」この言葉は高校生のときに塾の先生が言っていた言葉です。私は、両親自慢の娘になりたいです。これは何も大手企業に就職するとか、偉い人になるとか、お金持ちになるとかではなく、自分の夢を叶え、しっかりと自立し、一人前になることだと思います。

そして、たまにちょっとしたプレゼントをしたり、孫の顔を見せたりして親孝行をしたいです。そのために、今やるべきことを一生懸命やり、自分を信じて進んでいきます。

数日後からは、また変わらない日々がやってくるかもしれませんが、決意を改めることは自分次第でいつだってできるのです。

最後になりますが、本日このように盛大にお祝いしていただき、ありがとうございます。感謝の言葉をもちまして、私の新成人の誓いとさせていただきます。